

国立病院機構熊本医療センター

No.195



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 第35回

# 開放型病院連絡会開催が迫りました

平成25年度第1回（通算35回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る9月10日（火曜）午後7時より、ホテル日航熊本（5階 阿蘇の間）で開催されることになりました。連絡会総会では、症例の呈示、地域医療連携室からのお知らせに続きまして、意見交換会を予定しております。

多数の先生方、看護部門、コメディカル事務部門、MSWの方などスタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。当日、会場にて新規登録医の受付もできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。尚、例年と会場が異なりますのでご注意下さい。  
（管理課長 中村 敦）

## 第35回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時：平成25年9月10日（火）午後7時00分～

会場：ホテル日航熊本（5階 阿蘇の間）

内容：開放型病院連絡会総会

### 1. 症例の呈示

#### (1) “新しい人工膵臓について”

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至

#### (2) “超音波内視鏡の新たな展開”

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医師 石井 将太郎

### 2. 地域医療連携室からのお知らせ

統括診療部長（地域医療連携室長） 清川 哲志

意見交換会

### 【連絡先】

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5 電話 096-353-6501 内線5690

国立病院機構熊本医療センター管理課（中村・富田）

## 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

## 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営





## 「開院37年目を迎えて」

熊本脳神経外科病院  
院長 ふゆた 冬田 しゅうへい 修平

熊本市中央区本荘にあります熊本脳神経外科病院の冬田です。

この場をお借りして少し、病院の紹介をさせていただきます。当院は、昭和51年9月に西日本で最初の脳神経外科個人病院として設立され37年の歴史ある病院です。開院当初は小さな医院でしたが、今はベッド60床の二次救急病院として救急受け入れを行っています。医師歴45年の豊富な知識・技術を兼ね備えた脳神経外科レジデント原田医師と、臨床・研究

熱心な正常圧水頭症の名医井上医師と、病院と同じく昭和51年生まれ脳神経外科2年目ですが、救急専門医である私の3名が主に診療にあたっています。当院では主に、慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症・脳卒中・パーキンソン病・頭痛・めまい等の脳疾患を中心とした診療に取り組み、脳ドックなどの予防医学も積極的に推進しています。どの病気においても、症状が出現してから治療を開始するまでの時間が重要ですが、特に脳神経外科分野においては、生命予後や麻痺等の後遺症などが、患者様の人生に大きく影響をもたらすため、早期発見・早期治療の重要性を痛感しています。そこで、当院の使命として患者様を365日24時間体制で休まず受け入れることが最も大切であると考えています。また、患者様とご家族の方々が安心して治療に専念され満足していただける様に、救急から在宅復帰に向けて医師及びメディカルスタッフが一丸となって心ある医療に努めています。これからも、開院当初から37年間病院に受け継がれる **♡6つの心♡** を大切に患者様に寄り添う医療・看護を続けていきたいと思ひます♡♡♡♡♡♡



### ♡6つの心♡

「おはようございます」という明るい心  
「はい」という素直な心  
「すみません」という反省の心  
「私がします」という積極的な心  
「ありがとう」という感謝の心  
「おかげさまで」という謙虚な心

## 電子カルテを自由に閲覧できるようになりました

開放型病院へ登録していただいております先生方には、お忙しい診療のなか共同指導に来院していただき大変有り難うございます。これまでは、病棟で患者状態の把握のために電子カルテを参照するときに、ID、パスワードがなく、不自由をおかけしておりました。今回、登録医の皆様へID、パスワードを配布いたしました。当院の電子カルテは、ご自分で患者状態、検査データ、診療録を閲覧することが可能になりました。また電子カルテへの記載も可能となりました。

電子カルテの操作につきましては、地域医療連携室にて分かりやすく説明いたします。来院されたときに地域医療連携室にお立ち寄り下さい。ゆっくり患者状態を把握してから、患者さんを御診察することができます。これからも共同指導の内容を充実していきたいと考えております。ご活用よろしくお願ひいたします。

(地域医療連携室長 清川 哲志)



# チーム医療紹介

## 緩和ケアチーム



緩和ケアチーム

### 患者・ご家族とがん医療に携わる医療スタッフ皆様の応援団！

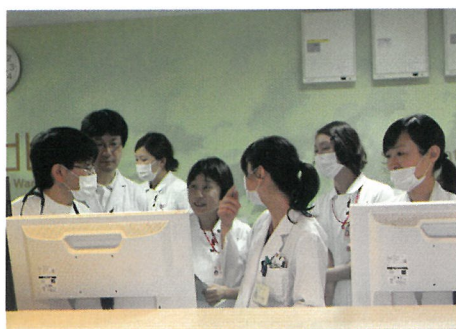
緩和ケアチームとは、「患者・家族のQOLの維持向上を目的に、主治医や担当看護師などと協働しながら、がん医療の早期から緩和ケアに関する専門的な知識や技術を提供する多職種から構成されるチーム」と言われています。つまり、緩和ケアチームは、患者・ご家族様とがん医療に携わる医療スタッフ皆様の応援団なのです。

当院の緩和ケアチームは、医師（麻酔科医・精神科医・放射線科医・内科医）、看護師（がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師、退院支援看護師）、薬剤師、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーの多職種で構成され、全人的なアプローチができる人材に恵まれています。また、総合病院ならではの麻酔科処置・放射線照射など専門性の高い疼痛緩和方法を用いることが可能です。更には、「緩和ケア」と「造血幹細胞移植・がん化学療法」それぞれを強みにしたがん看護専門看護師2名が専従であり、シームレスに全人的なサポートが行える体制になっています。

院外の患者様の緩和ケア外来や、医師向けの緩和ケア研修会、ナースのためのがん性疼痛緩和ケアセミナー、エンド・オブ・ライフケアセミナーなどの研修会も行っています。地域での症状緩和に関する勉強会へのチームメンバーの参加・派遣も可能ですのでこれらもご活用いただければと思います。

がんという病の特徴から、どんなに頑張ってもどんなに願ってもどうしようもない現実があることも事実です。しかし、どのような状況にあっても「希望は必ず見つかる」と信じ、その人の生き方（らし）そのものを皆様と共に応援させて頂きたいと思ひます。

（がん看護専門看護師 安永 浩子）



緩和回診



緩和治療委員会



緩和ケア研修会

# 2013 診療科紹介 (63)

## 眼 科



部長  
近藤 晶子 (こんどう しょうこ)  
眼科一般、角膜疾患、眼形成  
ぶどう膜炎  
日本眼科学会認定専門医

### 診療内容と特色

眼科は感覚器センターの一部として皮膚科や耳鼻咽喉科をはじめ、他の診療科と協力しつつ診療を行っています。

2013年4月現在眼科医3名で診療しています。診察は小児から高齢者に至る眼疾患に対応いたします。

視能訓練士は常勤1名非常勤1名で、斜視・弱視の診療に加え各種眼科検査が可能です。

手術はもっとも多い白内障の治療に加え網膜硝子体疾患、緑内障、眼瞼の治療を行っております。

入院病棟は7階東病棟です。歯科・形成外科・耳鼻科・皮膚科との混合病棟です。頭部・顔面に関する疾患に関して豊富な知識を持ったスタッフがそろっています。また、入院患者のほぼ100%にクリティカルパスを使用して効率的な医療の実行に勤めております。

総合病院の眼科の特色を生かして、全身疾患に合併する眼疾患の入院治療および精神疾患を有する患者や透析の必要な患者の入院手術にも取り組んでいます。

今後も良質な医療を提供できるよう努力してまいります。

### 診療実績

昨年度は前任医長の異動に伴い、患者数・手術症例数とも大きく数を割り込んでしまいました。(表)しかし、認知症や全身合併症のある手術症例は増加しています。

白内障の平均的な在院日数は片眼で4日、両眼で6日程度でした。

外眼手術に関しましては患者様の病状等を考慮し可能であれば日帰り手術を含めた短期入院での治療も行っております。



医長  
筒井順一郎 (つつい じゅんいちろう)  
眼科一般、角膜疾患、緑内障



医師  
宮崎 洋子 (みやざき ようこ)  
眼科一般、ぶどう膜炎

表 眼科患者数及び手術症例数

	外来新患者数	新入院患者数	手術症例数
2009年度	910	376	520
2010年度	858	436	616
2011年度	893	456	639
2012年度	650	329	422

### 研究実績

2000年より政策医療ネットワークの構築に伴い国立病院機構東京医療センターと協力して眼科診療におけるクリティカルパスについての検討や白内障のQOLにおよぼす影響、EBMにもとづくドライアイについての共同研究に参加しました。

2012年は硝子体手術時に使用する硝子体可視化剤の治験に参加しました。今後も当院の治験センターを利用して積極的に臨床試験に取り組むと考えています。

### ご案内

外来診察日は月・水・金です。火曜日と木曜日は手術日のため、外来は視能訓練士による予約検査が主で、担当医1名が人間ドックの診察と急患対応にあたります。

できましたら急を要する以外は、月・水・金曜日の受診をご指導いただきますようお願いいたします。

休日や時間外の患者様には24時間体制でオンコールシステムをとり、救急医療に当たっています。眼科領域の疾患に関してのご相談などございましたらいつでもご連絡ください。



# 熊病の歴史

小児科

旧陸軍病院時代には小児科はなく、当院において小児科がスタートしたのは本院が厚生省に移管し国立病院となった昭和20年のことで、当時熊本医科大学助教であった貴田丈夫先生（後に熊本大学小児科教授）が同年12月1日付けで赴任されたのが初めてあります。大学との兼務で週3回の外来診療にあたられ、昭和22年7月18日まで当院小児科を担当しておられました。

次に昭和22年5月31日付けで、佐藤平四郎先生（後に熊本大学養護教員養成所教授）が熊本大学小児科から医長として赴任されました。以来昭和42年7月1日熊本大学へ栄転されるまで20年間にわたって勤務され、診療や研究あるいはインターンの指導などに当たられました。赴任当時は小児科用の診療器具などほとんどない状態で、悪戦苦闘、「生みの苦勞」、「育ての苦勞」のもとに現在の熊本医療センター小児科の基礎を築かれました。当時熊本ではほとんど手がつけられていなかった未熟児診療にも取り組まれ、病棟に未熟児室を開設するなど、未熟児医療については熊本県下の中心的機関として有名でありました。また当時はワクチンもなく感染症の全盛期で、昭和34年を頂点とするポリオ（小児麻痺）の流行期には病棟の2/3をポリオ患者が占めるほどでありました。先生は病棟に鉄の肺を搬入し精力的に呼吸筋麻痺の患者の救済に当たられ、幸いに死亡例はなかったそうです。当時珍しかった鉄の肺による治験は学会でも高く評価されました。その後、昭和36年に輸入ポリオ生ワクチンの導入、昭和38年に国産のポリオ生ワクチンの定期接種が始まり患者は激減しました。

佐藤平四郎先生の後任として、昭和42年9月1日付けで国立療養所再春荘病院から富田泰弘先生（現在、熊本循環器科病院小児科）が医長として赴任されました。先生は元来小児結核を中心とした小児の呼吸器疾

患が専門でありましたが、昭和40年代の第二次ベビーブームのあおりを受けて未熟児や異常新生児など（昭和43年には新生児が小児科入院全体の26%を占めた）、小児科全般の診療はもちろんのこと新生児医療が盛んでありました。先生はまた病虚弱児教育の一貫として熊本県の訪問学級の創設に尽力され、当院では小学部が昭和44年11月、中学部は昭和49年4月に開設され現在に至っています。当院における毎月の小児科開業の先生方との勉強会“火曜会”は、昭和47年に富田先生が始められたもので、熊本市内の数ある小児科勉強会の中では最も古く、今年で実に41年を迎えます。

富田先生の後任として昭和63年4月1日付けで高木一孝が医長を拝命し現在に至ります。最近では熊本市内の小児科も施設ごとの専門化が進み、当科では一般小児科診療に加え小児血液および小児血液悪性腫瘍の診療に力を入れてきました。その間、柳邊安秀（現宮崎県立延岡病院副院長）や森永信吾（現小児科医長）が加わり、当科でも平年7年より造血幹細胞移植に着手し、血縁間同種骨髄移植や非血縁ドナーによる同種骨髄移植をおこなっています。平成19年には国立病院機構相模原病院から緒方美佳が赴任し、食物アレルギーに対して積極的に食物負荷試験をおこない、アナフィラキシー防止の生活指導をおこなっています。さらに平年25年4月、再春荘病院より免疫不全症が専門の水之上智之が赴任し、この領域でも今後の活躍が期待される所です。今後も諸先輩の志を受け継ぎ、当科の特色を生かしながら地域の医療に貢献できればと思う次第です。

原稿を書くにあたり、熊本循環器科病院の富田泰弘先生にご指導いただきました。この場を借りて深謝いたします。

【小児科部長 高木一孝】



## モニター会議が開催されました

地域住民の方々から幅広く意見を聴取し、診療機能の充実を図ると共に、地域に密着した病院として、良質な医療の推進を図ることを目的とした「モニター会議」が7月9日に開催されました。

今回は、一新校区自治協議会長の毛利秀士様、一新校区民生委員児童委員の大橋きよ子様、新町青年団副会長の宮本茂史様、一新校区第10町内自治会長の藤原謙吾様、一新小学校PTA副会長の橋本弥生様の計5名の外部委員の方々に出席して頂きました。

会議では、「健全な病院運営をされているか」、「患者の待ち時間に対する調査、対策はされているか」、「予防医療への取り組みはなされているか」といった質問や「看護学校の学生さんに精霊流しや地蔵祭りに参加して頂きありがたい」といったお礼の言葉もありました。また、「病院で開催されている市民公開講座を近隣住民にもう少しPRして欲しい」、「病院見学会を実施して欲しい」といった要望もあり、非常に活発な意見が交わされました。

地域に密着した病院を考える上で、非常に有意義な会議となりました。

これからも地域住民の皆さんのご意見等を参考にさせて頂き、病院機能の充実を図っていく所存でございます。(管理課長 中村 敦)



モニター会議の様子

平成25年7月27日 世界・日本肝炎デーに

## 「二の丸かんかんカフェ」を開店しました



世界保健機関（WHO）は、平成23年に世界的レベルでのウイルス性肝炎のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消や感染予防の推進を図ることを目的として、7月28日を「世界肝炎デー」と定め、肝炎に関する啓発活動等の実施を提唱しました。我が国でも昨年から7月28日を「日本肝炎デー」とし、全国的に肝炎に関するイベントが開催されました。

当院では月に1回入院および外来患者様を対象に「肝臓病教室」を、また毎年12月に一般住民を対象に「公開肝臓病教室」を開催し、肝臓病の啓発活動を行っています。世界・日本肝炎デーに当院で肝炎に関する普及啓発活動ができないかと考え、平成24年7月28日に第1回「二の丸かんかんカフェ」を開催しました。ユニークなネーミングは、医療者からの一方的な知識の提供よりも、肝臓病の患者様や肝臓に関心のある方への交流と情報交換の場の提供というコンセプトで、だれでも気軽に参加できるようにとの思いでつけました。

平成25年7月27日13時に第2回「二の丸かんかんカフェ」を開店しました。会場は看護学校2階の2教室で、病院とは違った静かな雰囲気の中、参加者は25名



消化器内科スタッフ

で、スタッフが19名、司会進行は田中幸子7西病棟師長が担当し、杉が最初の30分間肝臓病トピックスを話したのちに、グループワークに移りました。1グループ5名に分かれ、スタッフ2名がファシリテータとして参加し、それぞれの体験や疑問を紹介し、助言あるいは解決法を話し合ってもらいました。カフェの名の通り飲み物を用意しました。C型あるいはB型慢性肝炎の治療体験、副作用に関する質問、肝硬変や肝がんの治療に関する疑問などお互いに話し合い、割り当てられた1時間はあっという間に過ぎました。その後は全体での質疑応答で終了しました。会場の雰囲気は終始和気あいあいとし、それぞれが忌憚ない意見を出し合っていました。これは肝臓病教室では得られない光景で、主体が参加者であることを強く感じさせられました。

アンケートの結果、会は大変好評で、またこのような機会を作って欲しいとの意見が多数寄せられました。現在治療中あるいは治療を考えている患者様にとっては貴重な情報交換の機会で正しい理解につながると考えられ、継続したいと思います。

(消化器内科部長 杉 和洋)



和気あいあいとした会場の様子



## 「新町地蔵祭り・精霊流し」に参加しました

7月15日「第9回 熊本城 城下町 坪井川精霊流し」、7月20日「新町 地蔵祭り（段山）」、7月24日には「新町 地蔵祭り（明八橋会場）」が開催されました。

今年は精霊流しに14名、新町 地蔵祭り（段山）に8名、新町 地蔵祭り（明八橋会場）「よさこい踊り」には24名の学生がボランティアとして参加しました。精霊流しでは、精霊舟や灯籠の受付、精霊舟の受渡しを行いました。段山の地蔵祭りでは「かき氷」や「枝豆」、「抽せん券」の販売、明八橋会場の地蔵祭りでは「よさこい踊り」を披露しました。

2年ぶりのよさこい踊りでは、オリジナルの振付を考え、練習を重ね、祭りの日を迎えました。当日は、明八橋で地域の方々や河野学校長、高橋副学校長、佐伯看護部長が見守る中、見事な舞を披露し、また、「アンコール」の声をいただき、楽しみながら参加することができました。



最後は全員で!!

3つの行事に参加させていただき、学生は楽しみながら地域の方と交流し、その中で、コミュニケーションや接遇などの社会性を学ぶことができました。

この経験を今後の学校生活に活かしていけたらと願います。このようなイベントへの参加の機会をいただき、大変感謝申し上げます。

（看護学校教員 下吹越 直子）



新町地蔵祭り よさこい踊りの様子



精霊流し 精霊舟の準備



学生をねぎらう河野学校長

## 私のお勧めの一冊

### コモン ディジーズ ブック

日本内科学会 2013年4月10日発行 6,000円(税込)

一般医家の先生方が日常診療で遭遇する頻度の高い疾患の診療に際して、机の横に置いて参照できる簡便な本をめざして、日本内科学会が10年ぶりに発行した本です。企画編集は日本内科学会専門医部会です。一般書店では取り扱っていません。日本内科学会のホームページ<http://www.naika.or.jp/>で注文するようになっています。



頭痛、めまいなど25のコモンシンプトム、かぜ症候群、糖尿病など23のコモンディジーズが「標準的診療レベル」を意識して記されています。先生方の内科系疾患のトリアージ能力を一層高めることができる本とされます。

（神経内科医長 俵 哲）



## 最近のトピックス

## tPA静注療法の適応が4.5時間に拡大



神経内科医長

幸崎 弥之助

2005年10月に脳梗塞超急性期へのtPA静注療法が承認され、急性期脳梗塞の治療は“再発、症状進行の予防”と“早期リハビリテーション”から、“閉塞血管の再開通”による積極的な症状改善を目指した治療法へと変化しました。しかしながら実際にその治療が適用される症例は急性期脳梗塞症例の1.8-5.2%とごく少数に過ぎず、適応に限られる最も大きな要因は、3時間以内の治療開始というtime windowの狭さでした。

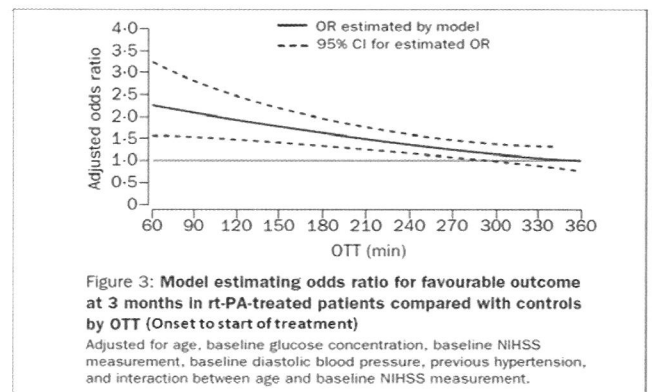
そのような中で、2008年のECASS III (European Cooperative Acute Stroke Study III) の結果を受けた欧米での流れに倣い、わが国でも2012年9月から治療可能時間の適応が3時間から4.5時間へ拡大されました。

脳梗塞超急性期症例を診療する当院でも、tPA静注療法の適応症例の増加を予想していましたが、2012年度の実際の治療実績は12症例で、2011年度の5症例を大きく上回りました。適応が4.5時間に拡大されて以降の2012年9月～2013年3月では7症例で、そのうち3時間以内が4症例、3～4.5時間が3症例であり、後者が43%を占めていました。年度ごとの症例数増加の主要因は地域社会への知識の普及と考えますが、2012年9月以降の症例の内訳からは、やはり適応時間

拡大の影響も大きいようです。

このようにtPA静注療法の症例数は今後も増加すると見込まれますが、ここで忘れてはならないことはこの治療法が、適応時間内に行えばよい治療ではなく、“早ければ早いほど良い治療”ということです。<図>はこれまでに行われたtPA静注療法の臨床研究データをもとに、発症3ヵ月後の転帰と、発症から静注までの時間の関連を示したものです。オッズ比1.0以上であればtPA静注療法の効果ありと判断されますが、分単位の違いで転帰に差を生じることが示されています。

適応時間が4.5時間に拡大されて、確かに時間的余裕はできましたが、最大限、迅速な対応が必要な治療であることに変わりはありません。当院ではできるだけ多くの患者さん方が最良の治療を享受できるよう努めていく所存です。関連病院の先生方をはじめ、関係各位には引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。



<図> The ATLANTIS, ECASS, and NINDS rt-PA Study Group Investigators: Lancet 363: 768-774, 2004

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ77回

緊急手術における術後死亡率予測式CORES  
(Calculation of post-Operative Risk in Emergency Surgery) の検証-多施設共同研究

麻酔科医長 宮崎 直樹



### 【背景】

当院の臨床研究部長芳賀克夫先生の開発されたE-PASSスコアリングシステムやPOSSUMスコアリングシステムに代表される予定手術の術後死亡率を予測するモデルは今までにいくつか報告されています。しかし、緊急手術に特化して術後死亡率を予測するモデルは報告されていません。緊急手術は術前検査を充分に行えない状態で手術に臨むことが多く、術前に患者の状態をしっかりと把握することは予定手術と比べ困難です。しかしながら予定手術に比べ緊急手術は術後の死亡率も高く、来院されてから手術室搬入の短時間の間にそのリスクを把握しインフォームドコンセントを行い、患者家族と医師の良好な関係を構築することは医師にとって非常に重要な課題です。我々は以前、当院の緊急手術のデータを解析し、緊急手術の術後在院死亡率を予測する式であるCORES (Calculation of post-Operative Risk in Emergency Surgery) を開発しました。CORESとはJapan Coma Scale、ASAリスク分類、白血球数、血小板数、BUN値の5つの術前のパラメータから在院死亡率を予測する式のことを指します。(Table 1)

- $\ln(R_1/1-R_1) = 1.3X_1 + 1.8X_2 + 3.0X_3 + 1.8X_4 + 0.84X_5 + 1.2X_6 - 4.6$
- $X_1$ : Presence (1) or absence (0) of JCS 30 or greater
- $X_2$ : Presence (1) or absence (0) of ASA class 3
- $X_3$ : Presence (1) or absence (0) of ASA class 4
- $X_4$ : Presence (1) or absence (0) of white blood cell count < 2,500 cells/ $\mu$ L
- $X_5$ : Presence (1) or absence (0) of platelet count < 150,000 or  $\geq$  300,000 cells/ $\mu$ L
- $X_6$ : Presence (1) or absence (0) of blood urea nitrogen  $\geq$  40 mg/dL

Table1: 術後在院死亡率予測式 (R 1)

### 【目的】

CORESの有用性を多施設 (6施設: 熊本赤十字病院、済生会熊本病院、熊本労災病院、熊本総合病院、水俣市立総合医療センター、熊本医療センター) において検証

### 【方法】

多施設における予測式の精度はROC曲線下面積で評価

術後合併症を調査し、その重症度について術後合併症の重症度の分類であるClavien分類を調査

### 【結果】

多施設におけるCORESのROC曲線下面積は0.85となりました。(Figure 1) 一般にROC曲線下面積が0.8以上あると良い予測モデルであるといえますので、CORESが良い予測モデルであることが示されました。

Figure 2 においてはCORESの予測した術後在院死亡率 (R) が高くなるにつれて術後合併症の重症度も高くなっていることがわかります。

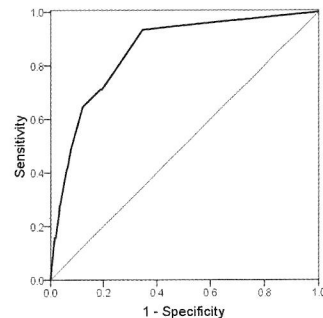


Figure 1: ROC曲線下面積

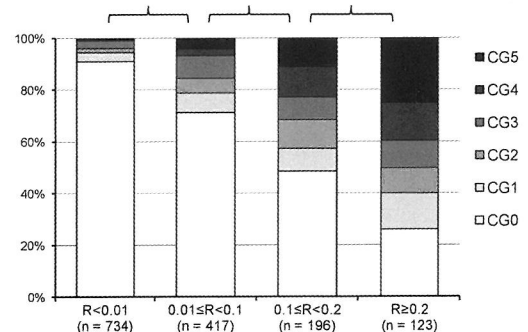


Figure 2

Table 2 に各手術部門における在院死亡の期待値と観測値を示します。在院死亡の期待値と観測値に有意な差は認めません。全診療科において術後在院死亡の的確に予測できているといえるでしょう。

Neurosurgery	163	22	17	.39
General surgery	830	51	34	.058
Cardiovascular surgery	89	17	17	1.0
Orthopedics	151	8	4	.24
Miscellaneous	238	10	4	.10

Table 2

### 【結語】

我々の開発したCORESは多施設研究においてもROC曲線下面積が0.85と高く、今回その有用性が確認できました。

今後、この式の使用が臨床における治療方針の決定やインフォームドコンセントに役立つように外科系の先生方と連携を行っていきたく考えています。



## 研修医レポート

### 臨床研修医

ふじた りょうすけ  
藤田 良佑



こんにちは。研修医1年目の藤田良佑です。山口大学を卒業し、4月から生まれて初めての土地、ここ熊本で医師としての第1歩を踏み出すことができ、また優しく頼り甲斐のある先輩医師やスタッフのいる当センターで研鑽を重ねることができ、大変嬉しく思います。これからもご指導のほどよろしく願いいたします。

さて、研修については、麻酔科から始まり、現在は血液内科、8月5日より救命救急部にて研修させていただいております。麻酔科では先生方から熱心なご指導をしていただきました。数多くの麻酔症例を経験す

ことができ、挿管や脊髄くも膜下麻酔は自身の目標の症例数を実施することができました。また、術中のバイタルに応じた薬剤の選択、volume管理、人工呼吸器設定など、自分自身で判断し対応することもあり、非常に多くのことを勉強させていただきました。さらに、いかに疼痛を少なくして処置を進めるかといった考え方は、他の科でも種々の処置を行う際に非常に役立っています。次に、ローテートした血液内科では、血液疾患だけでなく、不明熱や膠原病の症例を担当させていただき、各疾患に対する理解を深めることができました。はじめは戸惑っていた病棟業務も次第に慣れていき、抗癌剤の調整・投与や中心静脈路確保など、麻酔科と同様に数多くの手技や処置を経験することができ、この4ヶ月間で少しは医師として前進できたように思います。

このように充実した研修が送ることができるのも、当センターで働く総てのスタッフのご理解・ご協力があってこそ、と日々実感しています。日々忙しくありますが、努力を忘れず成長していきたいと考えていますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しく願いいたします。

### 臨床研修医

ふくしま こうき  
福島 巨希



こんにちは。研修医1年目の福島巨希と申します。久留米大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修させていただいております。研修が始まり早くも4ヶ月が過ぎましたが、少しずつ業務を覚えながらもまだまだ不慣れなことも多く、四苦八苦しながら日々過ごしております。

研修につきましては呼吸器内科からスタート致しました。私は学生時代に紙カルテしか触れたことがなかったので、最初は電子カルテを操作することすらままなりませんでした。しかし同期や上級医の先生方、スタッフの方々に助けをいただき、現在では人並みには扱えるようになったものと自負しております。また診療の面では、抗菌薬の使い方や人工呼吸の考え方、さらには気管支鏡検査の手技などのような臨床に即した内容

が多かったので、非常に興味を持って研修に取り組みました。

次にローテートした外科では、手術時の埋没縫合や糸結びのみならず、胸腔ドレナージやPICC挿入、ルート確保や動脈採血など、本当に多くの手技を経験させていただきました。また術前術後における輸液・栄養管理や呼吸管理、抗菌薬による感染コントロールなどについても学ぶ機会に恵まれ、今後の医師としての基礎となるような内容を勉強することができ、大変有意義な研修になったと思っております。

現在は糖尿病内分泌内科での研修が始まったばかりで、血糖コントロールの考え方や食事・運動療法、薬物療法、また患者教育など勉強しなければならないことが山積みです。

忙しい日々ではありますが、周囲の先生方の熱心な指導とサポートのもと、充実した研修を送らせていただいております。この先まだまだご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願い致します。

# ■ 研修のご案内 ■

## 第79回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年9月4日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 国立病院機構熊本医療センター 副院長 片渕 茂

「眼科治療の新しい展開」

熊本大学大学院生命科学研究部眼科学教授 谷原 秀信 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

## 第176回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年9月9日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「Fitz-Hugh-Curtis症候群の一例; クラミジア感染症」  
国立病院機構熊本医療センター消化器内科 本原 利彦
4. ミニレクチャー「骨髄異形成症候群の最近の治療について」  
国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 岩永 栄作

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501(代表) FAX: 096-325-2519

## 第34回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成25年9月14日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 山鹿中央病院 理事長/熊本県医師会理事 水足秀一郎 先生

演題: 「汎血球減少症—骨髄異形成症候群を中心に—」

1. 汎血球減少症の鑑別 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子
2. 骨髄異形成症候群の診断 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘
3. 骨髄異形成症候群の治療について 国立病院機構熊本南病院血液・膠原病内科医長 長倉 祥一 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

## 第144回 三木会 (無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成25年9月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「低血糖を認めたアルコール性ケトアシドーシスの一例」  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科  
中島昌利、坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
2. 「高カルシウム血クレーゼをきたした原発性副甲状腺機能亢進症の一例」  
国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 富田 正郎他

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

## 第28回 シンポジウム (無料)

[日本医師会生涯教育講座2単位認定]

日時▶平成25年9月27日(金)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 熊本内科病院 院長/熊本県医師会理事 伊津野良治 先生

1. 在宅医療が支えるもの  
医療法人ソレイユひまわり在宅クリニック院長 後藤 慶次 先生
2. 在宅医療における訪問看護師の役割と課題  
九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科准教授 開田ひとみ 先生
3. 熊本県の在宅医療への取り組み  
熊本県健康福祉部健康局医療政策課審議員 中本 弘作 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)



# 2013年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修センターホール	研修室	その他
2日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
3日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北
4日(水)	19:00～20:30 第79回 特別講演 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 片瀨 茂 「眼科治療の新しい展開」 熊本大学大学院生命科学研究部眼科学教授 谷原 秀徳		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス 消
5日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「脳神経外科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚 忠弘		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
6日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北
7日(土)	14:00～16:00 第248回 滅菌消毒法講座 「感染対策室と中央材料部のコラボレーション」		
9日(月)	19:00～20:30 第176回 月例会 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
10日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 19:00～21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
11日(水)	18:00～19:30 第82回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス 消
12日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「糖尿病の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至	18:30～20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
13日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北
14日(土)	15:00～17:30 第34回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 山鹿中央病院 理事長/熊本県医師会理事 水足秀一郎 「汎血球減少症 - 骨髄異形成症候群を中心に -」 1. 汎血球減少症の鑑別 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子 2. 骨髄異形成症候群の診断 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘 3. 骨髄異形成症候群の治療について 国立病院機構熊本南病院血液・膠原病内科医長 長倉 祥一		
17日(火)	19:30～20:30 第29回 熊本県食・暮らしハビリテーションセミナー 「先行期と摂食嚥下障害」 熊本保健科学大学・准教授 久保 高明		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北
18日(水)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス 消
19日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「甲状腺疾患の診療」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 東 輝一郎 14:00～15:00 第6回 市民公開講座 「脳の出血と手術」 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚 忠弘	19:00～20:45 第144回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位2・脳>0.5単位認定】	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
20日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北
24日(火)	18:30～20:30 血液研究班月例会	19:00～21:00 小児科火曜会(研1)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北
25日(水)	18:30～20:00 第128回 救急症例検討会 「神経内科・脳神経外科救急疾患」		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス 消
26日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症(外科疾患)」 国立病院機構熊本医療センター外科部長 宮成 信友 18:30～20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 ＜細胞診月例会・症例検討会＞	19:00～21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
27日(金)	19:00～21:00 第28回 シンポジウム 【日本医師会生涯教育講座2単位認定】 座長 熊本内科病院 院長/熊本県医師会理事 伊津野良治 「医療の将来 - 在宅医療の現状とこれから -」 1. 在宅医療を支えるもの 医療法人ソレイユ ひまわり在宅クリニック院長 後藤 慶次 2. 在宅医療における訪問看護師の役割と課題 九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科准教授 関田ひとみ 3. 熊本県の在宅医療への取り組み 熊本県健康福祉部健康局医療政策課 審議員 中本 弘作		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北
28日(土)	13:00～15:30 第130回 看護卒後研修 「事例を通して学ぶ臨床倫理」 宮崎大学医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野教授 坂井孝亮郎		
30日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西

研1～3 2階研修室1～3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)